續々群書類從

教育部

改正

翁問答　下

仁3
1.618
3止

1618
3止

翁問答卷之五

仲之問曰。儒人とハいかなるを云とや

仰義曰。心術ちがへてゆくすゑ人にすくれ無舌

云共。皆たくましく。藝能多人をだまして

是一歌歌ふく。義理を説とそ。人をたらして

こゝ狐のごとくゝ人をそこなふ。虎狼のごとく

なるゝ人指わるものゝ。儒人の操梁やそれ。虎狼程

狐ごとくかろ邪ゝをつくして。知謀藝能を

ぐゝ。舌をいとくゝ。ものゝ。人をだまし

こゝ狐のなぶさうふわるゝ。丸文

みれてこうちまでく。君子かりとをてらやしかり
故事に偏人こそ世にしられて天下を亡し。
名をうしなふ人多し。世習にとてらやしかるる
こさ事。伝士もそれ。藝あく芸を学ぶ士物讀場
ずしも自流の中より出偏人孤あり。くだけあるとみて、
さり天子諫侯の法用んまれ。是さすれば
俗之間曰郷原とハいふやうなる人をやしれ
論義曰世俗のめらいさとびる人と郷原と
云ハ郷原ハ機智利根ありて学問人よまさぐれ
何ものを裁判しても道理を孝情忠信を

はしめ行。詩歌をたしなむこと弱和なりさやう
ぬ足ゆまとしるもの志唯南世の人のかしり和
のなりとその是に獲らまて立身すれとも
もとしることを考ること能理なもはなもなし
思ハ名利ハ談泥よきさけくげれるん根
なるにらく者情なる信歌のたー
なる猛為めて根よりずひしりとなくて
果くれで孝情に似くまる実の孝情にあらず。
屋室歌より似くまる実の屋室歌よりこそ
人に義理を卒ずすてれ言のなるおり根か

孔子よりしてくるかぎりは、ひさしきものなり。利根
なるものハ、多くは陰病なり。まづ世俗のこころ
をは、鄉原のごとくなるを見て、云ふべしなどの
鄉原ハ、名利を欲んとおもふて、利害のかるが利
根なりとしてくるべし。目利とは、義
理をわきまへたるをいふ。その性質
をげなるものなり。孝にしたがひ、忠にしたがふ者ハ、
たゞ利根なれども、鄉原の利根と、利根の異ハ
是。鄉原の利根なるハ、名利を欲ふ為にして
義理の是非を利根とす。利根にして利害をかるがるしき

ものなり。此目ハなくひさしくなり。義
理をこゝろゆへよりそめ、中もとにしたがふ。
云られども、鄉原ハ、世をあざむき、君子ハ、稀なれば
鄉原の利根なるを見なれて、世に云ふ、
まこと、賢なりとも云べきなり。山鄉原、撰物の利根よ
りして、逆よりづまりの物に、学ばらずして、その上面より、聊
中りて、孝子の、父母の景を、仰ぐ、孝道のそこなひと
なるなれば、孔子、この、かたくなを、ひとく、鄉原ハ、盗
の賊なりとおもふべし。今の世にハ、鄉原の、ふ
ひとこゝろのひ、沢山なりとおもふ。志ある人士を

ゆくわきまへくらぶ。ものくさぐさのふまひさだすや
仏之問曰。門ものの禮法よりぐひてゐるよりのみハ
持のみちをとるべきなり。ぜんぜんぜんぜんぜん
源義曰。持ハ聖人の始更祢ゐの道名や。大ゐなる
ものの業。禪の禪授。湯武の放伐ぶみ。ハ周公の
吐握孔子の物こ便。ぞ。云一動の徴よ。ぶすぐ。
持のみちをとるなり。弥よりてゐるようなるを
持といハ。大なる。道や。程ますすてにその道と
面しめされら。持ハ。ゐるのおりをり祢ゐと持
とゐづるゐ義ハ。聖人ハ天と同体。ぶ。諸ゐ。是。持ふ

輕澤せず。拾よりず。独。徒。独。楽。活。潔。地。よ。し。く。
おこなひたちハ。ひたすらく。ゐ。天ゐの祢。祢に。適。當
恰好なる。景象。秤の。おりりの。宜。ところ。徒。
求。常。ぞ。て。猶の。程。手。ぞ。ゐ。て。適。當。拾。ぬ。ゐ
ゐに。ゐら。言。ゐ。ゐ。ゐ

稽古の道を。真実のこころざしうとんじて。聖人立法の
かたち指ての如くさとるべし。稽古ふかずして。稽古
ふかくしてもしることを。邪稽
学びたりとおもひ。時中の礼理にそむくを。邪稽
の礼とおもつけて。先王のせざりしやうに。礼
礼とも。真実の稽古とも。まことにまことひとり人聖賢乃
心通。稽古法よりちがひしらぬ。城内くらべひとり
稽古指。各別やうなるやうに。指の字其
精義をあらはされ。人学に志ありて。我知かり
とどこをまいらせも必。候言語法の地ふまへ
大学の純意ハ。指を。法にかなふする工夫なり。純

得ずして。指とばかり。文用するものや。法ありて。法ふ
おもひ。ゆゑとなくして。立ざるべかりく。学と
ころなくして。学しるべ。而なりさ。指。学の理味と。
ちりく。仲徳とべ。

一

仲之曰。さうふらぐ。初学の人も。指とおこちひて
中ぐ
孟子曰。指。聖人の如用ありて。初学の人。用
すること。あるべとべ。工夫の準的ハ。ぐ指
を用ありてとべ。たとへば。弓矢鉄砲を。打ごとくいな
どめが。移ることあるも。初学人のねらふ所。ねらふ所

ゞひハなけまでも、いなどめハ、うつぶとんにあ
たり初心の人ハかくともうらぶてぐらうりうの
あるうるあくてぐらうるの、天地縁陽なれぐもめあて
の稽ゝひ而どちがへて、ハうらおゝべきなり、そうごとく
初学の交用と、聖人の教用とハ天地縁陽なれど
も指ど準的として、工夫せざれぐ、ゆ道をゆにをべ
きなり

体交曰可与共学未可与適道可与適道未可与立
与立可与立未可与指ゝ而謨をゝくゝ及れぐ指を
初学の、ゆうるうすべきなり

仰義ゝ而謨ハ学者の、ゆくゝれてくる和の位を
うるとゝ益して上達の志おつくゝうるをゝまゝ
そなたるゝ、ゆ意や、初学の者ハ指をゝれうるをゝ
うずくゝのくゝまゝよおハあくゝ、の与共の学ハ、ゆるゝ
ちゝ指のゝをゝまゝうの人学まや、ゆ与適乃ゝもゆるゝ
ちゝ指乃ゝや、の与立のゝもゆるゝ指乃ゝや、
指よおゝよゝなゝ、ゝ乃ゝおゝ指なゝ指よおゝ学
なくゝ学のかゝ指なゝ、位を交用ゝ塾犬ゝ指
和の学のあるのくゝるゝ謨のまゝこのゝ
工夫成熟のゝ、ゆ指をあるゝて、ゆ極ゝ上の神ゝを指

ぶ
まして学者の準的を示たまふものなり孟子道
性善堂云必称堯舜云々儀同文王我師也周云豈
敢我哉ゆくのごとくの賢範をもつて仰ぎ慕ひ
おもひ学べ学べ学者の準的をもつてもつぱら心学の
徒やしなふ所法の地なり執滞して形骸の礼を
あらべ

一

仲文曰洛氏曰指若聖人之大用未能立而立指猶
人未純立而敬行難不仆矣此指云わく足ヤ六
生の義等をこゝに系繋ぎ
所着曰此指云ハ指を工夫のめあてとすることを

まもるにあらず指の理味をもつぱらにして乃
そこにひとあり人をもつぱらめざしこゝにあり指の
理味をもつぱらそこにひとして道のさとりとなる人二ちなの
足一ホハ狂足にいたる人指乃の法をおちず逆ふ
つまざる面彩を足付中庸儀の矩をわさまへど
義のもつぱらまもるをおろかなるまず法をおちざると
自極のみをもつて神乃指にそむき後を学ぶ人
此人理にまよふ人これハ指此仲徹徹尾ことく
を中庸儀の神理にして法にあらず逆にあづ
まぶるハ指の景象なることをさとらべ新を徳

て形とする。譬ばり。又一ふしハ。儒の学をひろめ
て。禮法よりづゝとぶるを。指なりとぐろんぜこ。時
中の適當をわきまへず。頑なに。禮法をそ
むきそのんもの。不義なりとぶつ。小ぶれどぶる
慢の傲氣ぶれたぐきあに。指の名をかりくの
ぐれことぐを巧みてぞ。門人を聞し世を惑した
のぞきまげとなるへ。今の指ら。浩生氏これ
なり。此二ふれの指乃。虞氏のとぶ。しめんたれ
浩氏の指云を。集注ふ。目めされらくく

一体元曰。淳于髡曰男女授受不親禮与孟子曰禮
也曰嫂溺則援之以手乎曰嫂溺不援是豺狼也
男女授受不親禮也嫂溺援之以手者権也曰今
天下溺矣夫子之不援何也曰天下溺援之以道嫂溺
援之以手子欲手援天下乎。孟子の此章を考ふ
迷ハ強と指と。先ぶのあるべきと。なゆいうぐ
一師義曰。漢儒及強。合先為指の説ハ此章を見て
やまうるとのるぶ。此章の禮ハ禮法を指ていく
と。禮法ハ天下第一氏の日用通行のものなり。平生急
務れるのうぶ。宜ふるものなれと。非考れ変りよ

礼法をたゞしくして夫婦たるべきものなれども平生日用の作法もあらざるに非常の変に臨みて権法なくば何をもつて権とせんや。権とは中庸の義なり。権とは中庸の変に臨みて権法なくば何をもつて権とせんや。権とは中庸の変にして道に迎ふるなり。権法なくば何をもつて権とせんや。嫂溺援之以手者礼也と。いはゆる権法なり。嫂溺は非常の変にして道を法とすべからず。嫂溺援之以手者礼也と。いはゆる権法なり

孟子儒者ハ礼を指とし仁義を
拘小凝滯せず。通ずるまず。活潑之地なること
を考らしめくるのまことにひとしたがふ
べいして指也と論じ。めされり孝経曰夫
孝ハ天之経也地之義也民之行也天地之経而民是
則之とあるハ経也指也。ふるまひくるの如名なれ
ば経と指と矣ありと云ハ不可や。禮法と指と
すこし矣ありといへハ可やいれども指ハ
如指之義なるよりいとけ申にかなるひく。
則ち礼法するハ指やけ申たりへて用の
意ハ指にそむきて。此禮の礼とある意ハ畢竟礼
のかよ指なり。指乃かよ禮なり。指と禮也名
義ハすこし矣あるべ。実ハ理やとく。
既味あるべ

一 仲之問曰。祈修作とハ仕るがごとく此者ハ
一 師答曰。祈修作するハ儒乃ものこそは
ちりの友に。祖を天に配し。祈
ぬに。通すると者りの。道やと孝経に況たまへ
る。周禮曰大宗伯之職掌建邦之天神人鬼地示
之禮以佐王建保邦國以吉禮事邦國之鬼神示

以禋祀祀昊天上帝以實柴祀日月星辰以槱燎
祀司中司命飌師雨師以血祭祭社稷五祀五嶽以
貍沈祭山林川澤以疈辜祭四方百物又曰若大師
則帥有司而立軍社奉主車若軍將有事則与
祭有司將事于四望又曰凡作田用牲于社宗則為
位類造上帝封于大神祭兵于山川亦如之祭法曰
燔柴於泰壇祭天也瘞埋於泰折祭地也用騂
犢埋少牢於泰昭祭時也相近於坎壇殺寒暑也
王宮祭月也夜明祭月也幽宗祭星也雩宗祭水
旱也四坎壇祭四方也山林川谷丘陵能出雲為風雨

見怪物皆曰神有天下者祭百神諸侯在其地則
祭之亡其地則不祭王為群姓立社曰大社王自為
立社曰王社諸侯為百姓立社曰國社諸侯自為
立社曰侯社大夫以下成群立社曰置社王為群姓
立七祀曰司命曰中霤曰國門曰國行曰泰厲曰戶曰
竈王自為立七祀諸侯為國立五祀曰司命曰中霤曰
國門曰國行曰公厲諸侯自為立五祀大夫立三祀曰
族厲曰門曰行適士立二祀曰門曰行庶士庶人立一祀
或立戶或立竈夫聖王之制祭祀也法施於民則
祀之以死勤事則祀之以身定國則祀之能禦大菑

則祀之能捍大患則祀之及夫日月星辰民所瞻
仰也山林川谷丘陵民所取財用也非此族ヤ不
在社典論曰祭神如神在以上の聖謨をよく考へ
て儒教よりの神ゆを作作するのをいんきょ
これハ神につくるまつる天法や先祖の鬼神を
祭ハ仏やや日本の神及の禮法に儒及祭祀
の禮よりおひらをひたることあり上三社乃神
俗のそこ系に儒者の神のようつくるまつるいらふ
らくらをひらへバ名稱之齋なりとの儒
ぶことこと義あるすやさて神ゆまつるまる

よハそれ仏このおそれて作作あれどこの仏信
をかとり天秩の祭祀禮よ考あ世てよく教
戒して作作すべきの謀よ世一ゆていたるる
佛者ハ神ゆを作作するを新り新修とい
仏ハ仏通神ハ通をどのるハ拙作ちきのめ
神之向日光の教をこの屋ハ儒及ハ理の
色極くるこのるりりとにの人元ち
なりでのつるるまくのへども日本の儒あ
くのるるおこるひかくのうんとないいり
所義曰それハ道のたくるのををわさまに儒

教の禮法をいとなむ者実の道なりとぞ論する
あやまりなり。本来儒道は天地の神たるあるを
よ世界を円舟車にいとなる和人力の通ずる和天
の覆不地の載和日月の てらし和家窮のお
つる和血気ある者の徒かしの和まく儒道乃
おこなはまねと云ふ人なく儒者にのをる和の
礼義作法ハ何よりも天地にもり人よりてその
作ハおこなはぬものみなく儒者にのをる和の礼
義作法ハ大方周の代より制作やゝ礼義作法
をすゝもちゐ比ゝ日かまく位なきもの

くゝ元ゝ。このあるハ物ごとくゝ位ある人の元
あこちひたまふとてもあるの倍よ。あはたゞ元
れこなりひきあるハなくゝ比ゝ大唐まして元おこな
ぬとくゝもすこしつ。換蓋世子のておこなはれぬ
乃程や。伏羲より周の代さて代その聖人制作
きくまふ礼義作法まで代ハらくお通して中
庸の儒法なれども代ゝ周うりて大道不及
の弊あるて換蓋なくてハなるなるやゝ志の孔
子ハ万世通用の道法ハすくなくゝあるとても論
するごとく礼義作法ハ何よりも天地にもりくゝよ

つまらぬものなれば。一しれの禅法よりむ
しろ。仮令義法とても大よそこゝろやゝ殷の代よ。
夏の代乃禮義作法をおこなひ損益一周の代
まもるこゝ殷の代乃禮義作法をおこなひ損益一
たまふまくはんあるべし。和学ごとき撞の乃を用
あらくにせぶれば。はやもりうごひわるものあり。
儒者ホのよるる法の禮法をすこもちゐれ。
元ちこゝろとゝいふとも。まこゝろおこるよ。ホけと。愛と。信を
よ。おを適當捨ゆの乃なくハ儒乃とたこゝろよ。
わるゝ異端やそのまこゝろよ。ホけにおを適當し。

てもそれ人に名利の私あるハ。ほとゝの小人と云
ものあらく素なの儒にあらぬたとひまこゝちゐ西
儒者よのよる正乃禮義作法よりゐひて。もを
る中庸の天理にあらぬ。私なく正を実
乃人情よりひて。ハ儒法をゐ君子やゝかくのこ
とく禮義作法よりゐ。まこゝ実の儒乃をおこな
ゆよハ行ふ。ゆよくもおこなひ。ごとくきるのおこを乃
ゆらくは素夷狄行乎夷狄素患難行乎患難
君子之入而不自得焉とのこゝ海ハ。ハ。こゝやゝ
仲之曰ふ。ゆこに。まこ実の儒乃をおこなふ工夫ハ。り

やうに仕るべく候間
一 御義曰その工夫は先自慢の浮氣名利の欲
心をすて同思雜毒の妄を乃ぞきぬ法の心源
をすまし全孝の心法を修習する相応に業
一とは是世間にまゝ心る後義作法は是その
業に風俗をかとして伝るも圭角なく自ま
たくぬやうよ元ちゝいふ心作法うやくしく後
法を守りかりそめにも人あらそふ驕人なく孝
慢なる伝の法を指よ入るくたとめおくこゝろ親あは
孝門をつゝ義よつゝ世義とゝけまゝより

ばや伝る人ゝ老る人ゝ法たうさ人なとをよく
うやまひ友たちにたのもしく義理をたゝく先
弟ゝ子よは友茶をおこなひ書よは義為を
かどこゝにべしかゝのごとくにおこなふと儒乃を
おこなふとは云やかやうに行こゝろひとさりう
あるゝ所は世界のうちよはおるまのごくひとくゝ
仲間してはとあおこなはるべきやう
儒元曰ふやうよろく今時の拙よき所を元のかを
をそまを家のまねをめざるくもたゝ理にかるひ
るゝのおくは度ゝ

昨日。儒佛の仏法ハ。世間。人ハ行なも。引
ゐるよ及ぐ。くゐ。宣て。日ゆまての。儒佛ハ。ゆみを
そりつらぐ。ハうなハぬ。ぬ。細ありて乃ちゆ。てらん。
高儒ハ。乃ゆて。偏じゆへハ。中庸の。祇程ゆ。ぶに。
うゆひ。ハ。ゆを。そらてもらるゆ。ゆ。泰伯ハ。
孝りのために。髮を。剃ゆ。ゆを。たまひ。ゆ。
ゆうゆ。れる。泰伯。其可。謂。至德也。已矣。と。嘆。美
し。ゆ。ゆを。ゆ。ゆを。ゆ。ゆを

くものとバ給ふ。さぶ人とやいひんぼうもと海を
とやかんんそのうこをぞそうるどころぐらのて
此味してハ見世のあんじの実志れぬをしまそいふ乃
ひとをそそる不のん根ハ道世のための何れためそと
考こて俳利おるべーぶそれうりうこのぐのぐろう
あらく此味俳利するハまよう新見者乃ぶさこや。
これのをよあらず。俗るの俳利ぬくもちん根よ
て此味せられバ見世のあやまちおるをしたのそいる。
これよりくらぬ。わさまんやときたとんありむ
うー大唐よ盗賊と云ねとんあり関数数千人を。

引率ーしうぐうねる軍しく号ーあまくこの罪を
やぶり強盗ー人を殺るこう教をぞくーず。こう武
勇のひ柄ぞ数ありくーどもを名大ねくハいてすー
て大盗とーいてーやーーこうにくこうこうる家名の熊坂
山盗賊かくこうこうをけまー随分剛強毒なるもの
あれくも武扁ちくハ。ずーてねとんと云ねとー
りうぞれけあをのうるまひハ名大ねる武扁者乃
うるまひよ山おろうまーけ五くもそのん根ねと
こうをぞかとこうる変にそのんぞ此ぬくー盗賊とこうや。
ぞ乃ぞ皆かくのこうー。よくく俳徳あるべー

一 傳云曰。真の僧侶とは。人間の欲をすて
分の第一の工夫なりと。法師。欲をすてき
るものなり。すてざるものは。欲をすて
て。世の中のさまひ。なやまされぬ。人間
一 師義曰。それ。佛氏。偏僻の義に。釈尊の天子
の位をすて。龍居士が財を。すて。ごとくに
欲なりと云。何をもつて。疑り
て。僧侶とは。やうやうもつて。位をすて。
財寶をもつるを。人の氣ちがひの欲をきたと
て。夫はさらひ。位なる。欲をも

捨てるを。欲とし。財寶をたくはへるを。欲とし。財
寶をもつるを。欲なりとし。ありはまぶの法を
をして。位をこのみ。財寶を貪る。根のつよくが
拙に。凝滯して。便利。撰択の。私あるなり。要
人のもつ。良背。敵。違ひて。意必固執の。私を
きはめて。富貴。貧賤。死生。禍福。天下
の。まつ。天おそれ。不。清濁。貴賤。好
惡。撰択の。情なく。兵。滿腔。滿目。一要。皇極。乃。
根。ばかりなる。故に。位よりのがれ。財宝。
なくなるを。欲とせば。位をすて。財寶をもつる

とも学び欲ともせばまた学び欲ともせば兵天乃若林
理にそむくを欲とし学び欲とす天乃の林理り
ゐるを学び欲とし学高あとし林理よりおひぬれ
天子の位よりのがるも林寞をたくはるも位を
はるも林寞をもとるも学び欲や学妄や林
理よりそむきぬまバ天子の位をもとるも林寞を
もとるも位よりのがるも林寞を蓄ふるも学び欲
や高や欲と学欲と妄と学高とハおこるなり
の品よハあらず只その人根よりをのなれば
必侯なるまハ学欲やいかるとなるハ学欲なりと

事あるとさぐむるハまたひとりひとりの人のたま
たハ異端偏僻のはなり。釈尊ここのんをさとり免
れたくバ王宮を擅特霊山とし殿堂浄土とし
天子の位を摩尼珠の位とし袈裟王敷を麻
衣茶座とし禮楽刑政を従法として彩色を
激波めとるべきはなハしく色ぐるとて王宮をいとひ
山よ入袈裟王敷をいとひ麻衣茶座をこのゐめ
まれとるハ何のとんぞ良背敵無不相ふとこと
ゐ王文帝位何そ我とまさんや袈衣玉敷何そ捐ぜんや。

麻衣の座位を乱さんや。王氏伝曰
曾是県由浅始名竟舞。涂奏生豈有拘束。
如斉林氏伝見背歌無不相与の意味を結び。
あらしう。竟舞は禅授湯武の放伐。
れこゝろとあるのまゝ。ハ。也あれ。くもあれそのゝ。
歌なく。潔静精微の。神理。清和。その事。
中は天理。ほかなし。歌とは。
こゝは。歌。理にあらそもゝ。歌あれば。歌
あらばまつてゝ。歌あるゝ人。それまゝ義りの
なくぐるハ大歌とゝしものなりゝれゝに歌なく。

潔静精微の神理清和なるゝ。天理にあらずして。帝堯は天下を舜にゆづり
給ふも。帝舜の天下をうけ給ふ。湯王の
桀を放たまふも。武王の紂を伐て。天下を救給ふ
も。皆竟歌の活りなりゝ。竟舞湯武
歌ゝ。おこなひ給ひ。皆貪欲は。なりや。
天下は授受。取弔ハ。如極度大なるゝやゝ方
ゝ。ゝれゝ。くのごとく。一殺と。人あるゝ。一殺を。人
なるもゝ。ゝんりちハたゝ。ゝるゝや。儒教ゝ。
皆敵。無。不相与の聖人。絶。ときるゝ。夫

よるとて。庶人は勿論のこと。お歴々の中にも。
さうびとて。とるべき。外寵と。欲とい心
は。一般なれども。義理よりさきに。たくはへ
まくあらべきものと。おもふべきと。欲とは。
世欲とまうすことは。やはりさうすみなく。世の中に
俗塵のさかりに。殊やまもなく。学問なき人を
生付。愚鈍なるものは。不義のたくはえをば。やー
みづからのものとのみ。思ひて。学問ある人とは。
利欲に。外欲と。形氣の欲とのみ。ばかりあり。
外欲は。金銀財寶と。世上のかーきと。おもひ分

もなきを。たりぬる知りと。貪るやうに欲はずしてやまるる。
ものなり。形氣の欲は。酒色に。ふけるまおぼれ。又は形
の便利と。とあるごとく。ひるやすに欲はたとへ。
のなり。世間に。欲とは。ふかくて。ふかくて。
ふかくて。省察してかちさるべ。貪婪あるべ。
を。特独と云やうなく。仏語あるべ
仏之曰。先生の教とまうす。屈くは。利欲とまうす
まは。俗語。ふんぐ。名の欲とまうす。世の利
とまうすとも。おもひ。ふぐ。氣随となるて。作法あ
くなりうんと。ねいはいうぐ

一師曰ふれハよき海苔ハ利欲に
くるしまれハ一位もすていさぎよくいる細ハ名とこの
むものハ紙寶をむさぼるハ命をおしまぬ
か紀利欲ハ[illegible]ハ功名の土をハ
の位と定てうハ性命ハ学ハ志なく義理をもて
守らざるハせめて名ハ利欲ありて利欲のかき
ごとくハ[illegible]ハ傷性命の志なく義理を守らざる
人ハ世をのがれもつぬるハ必乱庵にありて
世をあくまん濁人ハ狂者の門ハ入そのハん
きをかさ人ハ節井ハ門ハ入ぬべし味えべき

ものなりもられどもられハ[illegible]ハ志なき凡夫の上
の味なりハ学に志しぬる上ハ味ハまぐ名
別や夫名ハ実乃賓とゝゝくをんにおりい身
ホおこなハ実あれハ名ハ[illegible]ものなり
たとへハ実ハ形なり名ハ影なり名をおひハ名と
おこなハハ名ハ名あり荒[illegible]孔[illegible]ハ[illegible]や悪を
おひ悪をおこなハハ悪乃名あり禁討盗[illegible]ハ
られなり名をこの悪をにくむハ心兼愛ハ
ハ[illegible]なる者に名をかくしてとび悪名をハく
みきゝふハ美名の門ハなりもるにられく生付

いさぎよき紀士ハ其名たゝくわゝし。参議そんす
るこの矣ゝ。ぎん根。名をこれ。ゑ。ゑをいくむ。衷
桑のか。ゑ。ゑ。ゑ

このむ言ハ是やまとくにの実の名とこのむ
言ハ仏おしへよりくわさまざまなれバ是ばかりくいろ人
不知而不悩の位にそなわりて聖賢英雄
者子忠臣の名誉ハ是ばかりにすぎず理にくらし
ひくるかまれハみな未と新とやこゝろ名誉乃根
かゝと形とハそのゝとゝ心ゝ跡とや聖賢のゝとゝに
まさらぬ聖賢のゝ跡と為ハおこなハゞして
聖賢とかまれとゝろ人なりと求めんに者法か
くゝ為に学ひとなるなハゞしてなりゝ乃業とを
むるハたとへハ形りをさに影をりとむるゝごと

様猴の水の月とをいるむに似たりそのうへ乃如
乃うちに連城の珠あるもあらて王云乃位ハ七
日えぞろ名誉の言楽あるゝすをもらゝ世乃凡夫
の理もなきゝ信後よりかまきとをとめ孫ひてむ
孫をこゝ乃為をろ〻めゝく楚女の窮をとをと
めゝく餓死ーとるごとの記れ少るまひ学下に浅乃
ー名れ欲とをつるに人ハ是ゝ世ひ言虚者ハ合を
かちさるべーのくのゝ味仏徳ーて名の欲と
をつるゝ根本天理れ言楽をもとめ乱俗とを
れ作法をゝしくせんゝあるれハ人学に志ある

ものハ名をはるかに後世にのこるべし。されどもいとなりて利欲にもいとに市井に居ながらいとに君子中庸の道に入るべき君子にはかまれかくめいしてゐるものハ名利の欲に沐浴するゆゑ

一 間思雑念を一念の徹に省察して独を慎で乃ち中庸に帰すべし

一 仲尼曰楚昭王の夫人窮困して餓死しかけたるを云ハ伯夷叔斉ハ

一 仲尼曰それハ寓言の故まやむり大唐楚国の王ニしてかくの如き女と窮困をめされ、れ、ハ林中乃

ち

ことにかくの如き宮女ハ楚王のかりひつさたまふまきまの式ハ[illegible]ひ合義をとふびして居せなどもしの[illegible]かくなるべきうと影食してかつく死しうと云ふやハ世間の人をとこれ[illegible]ハ[illegible]を[illegible]むるに人をとるに[illegible]時代の天子諸侯の[illegible]たまふの世俗ハ[illegible]てのてをやをもるものハ[illegible]くを時ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

たとへてはいはゞ学に志ある人たち戒むへきなり

一 体元曰習深ふかしとはいはゆるなるふかをやゝ

師義曰習深ふかしとは生下てよりこれをよんなれ

ゆゑにくるものゝ学びをもつぱらなくあやうそ

きりくるふかなりたとへば水のごとく茶をとるけはそれ

文字をかくに緑書ととけでそれ文書くなるごと

しなれば茶の色はかをもまたなけれども茶と

緑書とはまことにかくのごとくそれこ

とくかをふかしんに好悪のる宜はなけれども

をたつるをかの風俗をあはにあやうそ

まりてはなはだの品宜をにうりあり学問義

解するものあるふかあり先ずふかの場的をよく考宜を

上あるくあるふかをとはゝ味してかちをるべし茶をとき

布をとるに書ぐるる水もよくすまるぬれば茶

をかへしてくるれば

て学ぶ学問の深ふかの水はそのにうりをまりやをう

ふべきなり体弱義要ようそい

体元曰問思雑ふかとはいはゆるなる会ふ

ようなり

師義曰さるる悪会にあるぶれども思ひくを

なくぽうけもなくさうぞくしぬ思ひのこ
天魔のぽつくひとなると間思ふこと
物の際ぽ忘れあるを所ぽ思ふ
者一者ぽ他の会乃ぽとりまぜおこり感通のさう
ふなると雑毒と云やぽ二ツハかりを病ぽ
て克治ぐことさのれなうぽく省察あるべし

一 仙術を学ぶ人ぽ生死の益あり仏
乃と修する人ぽ成仏得脱の益あり
儒乃を学ぶもさうなる別段の益あるの
茅舎

一 師曰ふ人ぽ異端の説と問あるうを
かるるのぽくい者孫易孫ぽ修人ぽ生死
死後のこと乃掌を指ぐ分ぬるぽ花角の
儀論ぽ及ぬのやを云ふ迄ぽ今世の人ぽ分ぬ
疑あれ者ぽ仏仏の乃によりて云ふまひ
とき三の中ぽ仏家ぽ生死の術も仏家成仏
得脱の修行も皆異竟ぽ一心乃工夫や仏家ぽ
者修心煉性と家名ぽ仏家ぽ別乃足性と
家名とすを工夫の中分ぽ脱する所のぽ性を
生死と云ぽ仏得脱と云やぽ二氏ともに元気の

灵光とん性の端的として元神の妙理をさとり
ゆす為る為にそれ及性脈乃中ひの天子より
一位下や儒家より一心の工夫をもとし元神名
神魂と性の端的とし。窮理尽性以命を宗
名とし工夫十分。脈絡ある而の心性を要神。以
漆吾息と云云宗名れ端的も必見大体の心性
も仏仏よりも一位まさるあれば生不死と
指不の益も放佛得脱と指不の益も一位まさ
たる益あると知べし

性理會通曰。易曰保合大

根。一團真理實氣充宇宙而無餘歷浩劫而
無改。皆剛柔生造化生萬象摂三才沖漠網
縕融和純粋。若能保此氣而不失合此理而不違。
身同大道。如点兩之滴海。渾滄溟而共存心契
天真。猶片雲之没空。攬太虚而同久利通而無
滞礙。貞固而無変遷。故天地終而壽不竟。日月
晦而明不虧。故曰至誠無息。不息則久久則徵。
徴則悠遠。善保大和者誠道之至妙者也聞
者疑之曰性即理也命即氣也人之性天地之理
也人之命天地之氣也誠能以性合天地之理以命

會天地之氣即天地之理自性也天地之氣自命
也理氣無終壞此性命亦無終壞譬以水投
氷乎何可竭以火投火乎何可滅由其躰大造
而超小刼故不以天地之成毀而成毀獲大身而
忘小形故不以軀殼之存亡而存亡謂之盡性
至命謂之体道同天謂之至德疑道此中大有
真樂盎然春融熙然宇泰既利且貞活潑々
地即易之黄中通理正位居体美在其中暢
于四肢発于事業美之至也此乃儒教中不死
之神方長生之下術不可与守空寂而坐枯禪

弄精魂而希昇舉者同日而語也この賢範
とよく体察して儒教聖神の深意息の位
よ仏佛の修行は紙ひとすじ。
另のものとはわきまえ迷ひとなるたまふ色。
保合太和なる心法を化するとひべうす。
全孝の心法や
体元曰全孝の心法をいうなり。
卯義曰孝經曰夫孝天之經地之義民之行天地之
經而民是則之又曰天地之性人為貴人之行莫大
於孝孝莫大於嚴父嚴父莫大於配天又曰孝悌

之至通於神明充于四海無所不通詩云自西自
東自南自北無思不服曾子曰夫孝置之而塞
乎天地溥之而横乎四海施諸後世而無朝夕推
而放諸東海而準推而放諸西海而準推而放
諸南海而準推而放諸北海而準詩云自西自
東自南自北無思不服此之謂也又曰衆之本教
曰孝其行曰養養可能也敬為難敬可能也安
為難安可能也卒為難父母既沒慎行其身不
遺又毋惡名可謂能終矣仁者仁此者也禮者履
此者也義者宜此者也信者信此者也強者強此
者也樂者自順此生刑自反此作孟子曰仁之實事
親是也義之實從兄是也智之實知斯二者弗
去是也禮之實節文斯二者是也樂之實樂此
二者樂則生矣生則惡可已也惡可已則不知足之
蹈之手之舞之禮記仲尼曰仁者人也合外內之
物是故行人之事親也如事天事天如事親是故
孝子成身以上利聖謨賢範以下利黎民
孝道の親切真實廣大高明無上無外ものの無對
なり孝乃ち孝道もなく乃ち孝子もなく
矣如へ一たびそれおこるよりしてひろくしてかつ
ひろくしてかつ

の天子よりそむきぬまハ天威のゆるさぬ所なり。君子
乃だけとなさる和なりとなる故に孝弟に不愛其
親而愛他人者謂之悖德不敬其親而敬他人者
謂之悖禮と戒たまへり。ゆくゆくは孝道全体
の天子をおさるにすんする工夫を全孝といふなり
全孝のんはその廣大なることハ秋月の通じ
六合をまとうるとなり。弟乃ち実ハ勇をもて
尊をいくなり。勇ハ敢てなこるなり。ハ勇法
ありハ法とハ勇するなり。ハ良知を徳として独と
悖よあり。良知とハ赤子孩提の時よりその親を

敬する最初一念を拡充して普遍の分別
見識を立実よ発ち法性の知を云ふ良知ハ
磨而不磷涅而不緇の真ハ知ハいふ。為癖
不為の凡まはんもハ。ふるものなり。ちるな
よし良知を工夫乃徳とくしてエまするなり大
学ハ致知格物の工夫これなり。独と悖とハ一念乃
すてうおろけに良知を徳とくしてく省察の時
て名利の欲ハ人間思雑などの私念おこる時
やふれやの勇法ぞこるハ屈する不孝の罪人と
なりて通ずるハ六極眞重の鬼責をうけ

して、ふ刑莫大の罰刑と文べき。魔んやとたそれ
性災急よ克去ら、神明にお通すら。孟子の独楽
とやりくしら工夫を云や。一念ハ西ん、そ行やの方城
そこちひ孟ふるとく云ふ細ハ孝弟曰。身体髪膚受
之父母不敢毀傷孝之始やこれ聖謨のんハ我身よ
そなりうとのハんも性を身体も毛髪も皆親乃
んの性身体毛髪を受ることのなれハ身体髪膚
もなを身体髪膚まあるハ親の身体髪膚や
身体髪膚のうをなるんの性も我んの性よあるハ
父母のんの性やをうなんに。我身体髪膚をそこ

をひやうるハ即父母の身体髪膚をそこちひ
やうるなりを孟子性をそこなひやうるハするもちち
父母の孟性をそこなハやうるものなり身体髪
膚ハ器ものてやしくく孟性ハ尊ものとさも
のなりやしきを身体髪膚をそこなひやうるも
大西逆大罪孟子や天乃罰
身孟性をそこなひやうるハ行ハ大西逆大罪孟
やそこなをぬふわさまくんよりく守不敢毀
傷ハ孝孟を更用する始なりと教たまふやは聖
謨をやりく体ふをれば名利の欲ハ人間思

雑意ちどの。牧会を完すべきて。多性を
うこなるべきは。即父母の性をそこなひやぶる
ものなり。孝弟この意なれば。孟子に爾祖聿脩
厥德といふ。祖を引くなり。孟子
なほんためなりとくく。仲尼あるべ
侍立曰。身体髪膚をそこなひやぶらざる。孝の
始也。立身行道。揚名于後世。以顯父母者也。
孝子之事親也。居則致其敬。養則致其樂。病則致其憂。喪則致其哀。祭則致其嚴。五者備矣。然後能事親者也。
孝弟は。身体髪膚受之父母。不敢毀傷。孝之始也
ちうと。ふーたまふ。毀傷は血肉の身体髪膚
をこなひやぶるごとにきあらば孝にあらず
なるなり。害は字のこころや。血肉の
身体髪膚のごとあらば孝にあらず。形体の
仁者人也。人字の形。天性や。惟
聖人能践可以践形。発明されるる形色乃字
のこころや。仁聖は。人倫の範のなり。身体髪膚
なり。天性。仁孝の凝聚なるなり。孟子に孝弟
孝弟は。孟子に身体髪膚これなり。ものなり。

天性仁者の名をかりにまりり勇におこなふときは
たとひ血肉の身体髪膚とハいへどこれひやぶるとも
も不孝にあらざる者なりや。血肉の身体髪膚
をハいへどこれひやぶるとも天性仁者の身体髪
膚をそこなひやぶるとハいへども義や殺身成仁とハ
いふハ此ところや天性仁者ハ身をもつて
ふおこなひて悪逆なるときハたとひ身
を全くして毛一すじこなひやぶるとも孝
にあらずや。血肉の身体髪膚とハいへども
ものやぶるとハいふとも天性仁者の身体髪膚をそ

こなひやぶるとや。曾子曰戦陳無勇非孝也と賢
範のごとハ軍陣戦場にして武勇とくけつぐ記ば
して軍功をなすときハ疵を被り討死するハ孝
にあらずや。若武勇をもつぱらとせざる時ハ
飛臆病の悪名をとらけばとも不孝やといまし先
めされしに陳の卿曰若有曾子之心即龍逄之身首
分裂与磨手磨足一般不孤則老死牖下亦与力鋸
傷摩何異これ論語よ曾子ハ孝子を呼
て、磨手磨足と云て精をつくして不敢毀傷八
ん法とおもへめされるものを記せり曾子ハ

血肉の身体髮膚をそこなひやぶらざる形をいく
天性仁孝の身体髮膚をそこなひやぶらざるす
とおしへめされしうの孝弟誤のごとしそる
城章句の儒者曾子のかきをさとりして
只血肉の身体髮膚をそこなひやぶらざるすか
ごとく講説するにより陳氏は義理あり此説
のこころは全孝の人法をとりて更用をれば孟氏
干戈諫てをにめされて身体髮膚をきりやぶる
身首分別表しうるも曾子の見を論なして一毛
もそこなひやぶらざるをおしへめされしもた

なり孝ひやうしまつ全孝の人法をとりて更用
せざる人をば十九拾まで鮮老く京都のうちま
で病死して毛一すじそこなはれといふもかなく
きくれ親のそ初めを刑罰よりおひしらしと。
如れば不孝なりと云義なり体無なるべし
体元問曰全孝の人法をとりて更用仕らば良皆敵
意の聖域へもつらつて師義曰心学は凡夫しらぬ人よ
のん法がとりなり良皆敵意の人法めてはなハ
りて実ハ如何やこれを体工夫と云や。

人法士堵的ハ同一要なれども変用する人ハ法士堵
義大聖神の業なるゆゑんをたゞ法士ハ
大海や変用するゝハ路をけく人や行をゆく人ハ
老狗老初男女並ちゝ不連者の業別あまゝ也。
路ハ人のゝ大海なるゆゑ全孝の人法士ハ
変用しゝ漫ことわまだ其人ひろく雑胖ゝ度
大海の精微中庸の神ゝと服膺して人の子と
なりてハ孝に止ゝ人ハ君に止ゝ臣下となりてハ忠に止ゝ
まゝ人ハ親となりてハ慈に止ゝ人ハ兄となり
てハ仁に止ゝ人の兄となりてハ惠に止ゝ人の弟

中なりてハ恭に止ゝ人の朋友となりてハ信に
止ゝ富貴に素してハ富貴を行ひ貧賤に素して
ハ貧賤をおこなひ夷狄に素して夷狄をおこ
なひ患難に素してハ患難をおこなひ境遇に
必の累なきなり。水のなゝごとく心の安く。静
なるなりハ山の定まるごとく暴君汚吏も志を
奪こと能ハ天災地妖も殺ことあたハざるもの
なり。ゝ。ゝ。胎孕孰の時ゝ脱胎神化
して聖神の位に登ゝきハ天地とその徳とあゝ也
日月とその明とあゝ也四時とその序あゝ也鬼神

中庸に曰、聖人を表して天下に法る。南面の位よりして帝業は君たるや、北面の位よりして帝業は臣たるや。位とは天下にありて、天聖素王の位なり。孔子曰、夫聖人之德、又何以加於君乎

莊周卷下　丙戌冬

魯國乃至莊子ふ法りて曰、魯ふ儒者ありて、莊子曰、魯ふ儒者ありて、儒者は君子の道と学びのもとなり。君子とは、人を教化して、人を教化して、人を教化して

儒道あれどもかゝまり国を治天下一の儒者とまでも
魯國の人を儒服と云そなるとゆへ多分儒道のものを
也儒者とりたあるすり我と我らこゝひ儒道
くちく儒服と云そなる者と成ぬ飛ぶかあこなる者と藝
制と云く誠こゝ治人者しゝ魯公花子に言を用くたのごと
久法と下ちくくらかくちく又日日わ也月月わ也儒服
乃者みくもどそく一人儒服をあしらもあるものもあるよりして
國事を問ひわ也月月子孫方変ふく亡ものとなるもの
沖田魯國乃者を儒服と云そなる人とちく儒者とあ
為まり今は世乃人ハ儒書とゝむ人とちく儒者と
あやまりてちをあやまる而乃者ハ琴ちをれた賣術を知

ちる事ハ有ゆ中ゆ人なり文学ハ藝なれ物かゝまよ
名生ハ好きる人を沢もあるひ人ゝ文学ある人乃
ても仁義の道なる者ハ儒者ちりまあ文藝ある凡夫と
一文不通乃人ならを仁義の道ゆくなる凡夫まあ
文学なる者儒者ちりハ分ぬかれたいはまの時ちる
あやまりまりそんそく儒書とゝむびらと学ぶこゝひ
文学ある人と儒者とりくあせらひ世人の心者
見ぬきそるかちりく学ぶる物ちと坊主又ハ出家なる
きざりく士乃ちきよりちくくなくくたらく
ちり儒服乃儒者とゆまあるびる事とあるそる花子のこ
ちる人なりて学問の事之世ちるかあるびる事天

下の大不幸なることなり、
凶荒の年十三度も書数あれども
乃一度の飢饉よりもなく丁亥の年と小炎大同故小冊に之
倖元曰名利りよんあらく学問とる人乃を養ひ名利のことを
あくいさめこれ名利乃ためにもなく道よりあらずして学
問とる人乃養ひ死のこふあるすべきくらいなぞ彼
儀いかりのふなりゆ死わるを名いく　仲乃曰人心の日ごく
しと指ちく知あるもとろうなるも自満乃心なれを
まねなりまの淫ん明法とうまくまーまーまー

四つの小なりのうちより出法ふうとして満ないとの
そうされいを学ぶそうの時満ないの人ことなりて明治の
小時くありわくのごとれば満いを天地鬼神の性法の
ごとくなる由人のよこんをくく行我じかりのようなる人
も又見と思ひ見と時おりは魔と来ることの多ちもで1
時而小魔と来しぬ世界行事も実風とこの人といけ
防出ることもこのうず天下小我とこの手をさ出あり人もゆる
さん高満とけ面小あくく鞍おやくこのぐらなるとこげ
ちこ変ることあがどらかるとそうあをとのれと見こう
人と他と寸或八世のうけまして多ちといとい猫りあること紙
のうこ戎八長しさと死八氣のちがよくこもありこの考

四つ加くれあること死の人学問せばるこのをあまこ有とい人
をとうがと帰を学死こかけ出所兵術とまくそこ小ぶ
四からり学ぶくれとと死人あ出所学問とうがと満
して満ないのこくつをなる事とう死まんどれるうなるか
小なけりしこうかこれ八大禹八聖人なれい毛以の満ない
有ましこれを伯益禹と奨けく満招損道要言こ以
をまして聖人ちい小さ海の人ちがくくもけ山戒と言うべ
うんや周公の才ありても満ないこ方小をとうもとと孔
子の人こまりも高満の凶法の長く害ある事といまり
の孔子ありの学問の志ありこの人を云り道子を学の人長
魔障と徒のうこ徒ぶ死事第一の点務なる名利

乃ちなく道小志一有こゝを高漢乃幽玄とのそ紀
と問ろ心得なれ孔子と問く曰不魔と来し其仏幽
小為へ乃ちなりずなれ学問ようずと付ら事あさ
きくなげうし我も人も能いまし比べしくく
斉人と魯人と郊上戦ようこと紀魯軍乃ちまれ大将ハ冉求也
資用父御ちら樊遅右ちらとて小戦合ちく魯乃左ち分
軍一わ道左ハ廿ち右ハ廿ちぞうす樊遅乃謀を用ひ冉求
自身逆を入く斉乃軍と紛り甲首八十とゆるゆ上海
よ魯國乃勝軍ならぬ其後季康子冉求上問けるハ今汝
乃軍功きくひな紀事なり軍法を学びゆくくあるし
や仲一又なれ付きる学問冉求答て曰はれなるう

ゆて孔ちろ小恐す孔子小学ひゆるらと人ゝ上季康子見
上侍く孔と問く孔子と人ゝ孔子魯ゑ冉ち孔ひ
仲乃曰冉求者季氏乃大将となりぬれ仲軍功ゑ
うずは軍功なくハ孔子乃文武兼備乃軍法上ゑ
事と季氏うぐひちる事あくハ仲ゑ人のつまず
吟ゑ人かく乃ちくなれハ後世の文武とをけて二問上を
ゑあやまちもさのちうぐひまし上事ゑ
くれおく軍法上ゑ 仲元曰孔子
乃ちハいく 仲の曰兵を用ひく勝乃其公ゑ仲今ゑ
世代天下乃孔と言めく幽冥ゑ人を者子ちれと用
見と用ひ百度ゑとみぐち天下上ちうひちく幽冥

すべくの業となれり然ることを見ざる小人ありて戦伐とはみ張間暴逆のつくさをそなくきまくちんの不祥とのたまふ

問曰今の世の人儒書をよみ学ぶ人多なれども儒者なるものを見もまこと儒者の名をはづかしめざる人なるやまたいかゝぞや　答曰結局儒者乃名は徳ありて藝ふかく文学に長ずるの人なれども徳ありてこゝろ事ふかくまことに学文のよしある人ふかくて仁義乃徳を知儒者ふかくずまこと文学ふかくして孔氏乃一文不通乃人なりたる孔夫子なれども仁義の徳のまことなる人なれども文学なくして文学なる儒者なりしかれども未分明なりてまことなるこゝろ事なりしかのみならずまこと文学ふかくまこと儒書をよみけりと学問とひろく学

ある人と信ずとりくなせりしかしも世人乃ムこと
そうふしりく学問を物ようと坊主又ハ出家などこれ
ふしりく士乃ちゑこと乃ちゑこと
ある学問の実義世るふ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
幸なる人一　問云学問乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
と天下乃人不幸ある事ハ　答曰学問を明徳とゆう
ふしりと乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
人乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
ひさひと人り乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
とゆうそう一ゆうとゆうれとゆう乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ

ゑと乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
を乃ちゑ逆とゆうせり人乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
乃ちゑ天下乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ
乃ちゑ不幸ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

ものうき生涯乃望みなく又八いちやのぐりゝ或八そもそも乃
ゝ式三法を志ゝしてゝ学問もしろふしゆく学問第一義の
明徳とゆゝふもろ事れ治法ならひこなれ事なれを
ゆゝをゆくゝしゝ身とかさひもろ言八なくて文藝と言葉す
ゆゝ商乃ゝゝもひなら学ふ商一美美なる方あれこそも
ゝ紀先学小教条なれまゝゆくゝ道乃わゝゆふある事を
ゝ紀まゝゝと法小先王乃法典人君子れ迹を得ゝゝ道ゝ
世乃ゆゝ格套と言ゝ乃理窟を語ゝゝ乃理
ゝ先ゝとりゆくゝゆゝとゆゝ身を修ゝゝ伝伝とゝ
ゆゝ小ゝれゝゝ来活潑頭乃ゝ部ゝゝとゝゝ自己ゝ
裏ゝ自有ゝゝゝ明徳の定祐潤楽ゝゝを主角見ゝ

ゝゝゝ及ゆゝ和睦せゝゝゆゝゆゝ小人を和睦せゝゝゆゝゆゝ
世界乃学ゝゝゝゝゝ八そもそも乃藝ゝゝなゝ世乃れ
人先ゝゝゝゝ物ゝゝ出家いゝやなゝゝ八言葉のゝ
なゝゝゝゝゝ

と我も人も学問もちろんのくせにて世俗の学問とそ
ゑ物とやて立成ハ腹と立成ハ腹ひかゝ〻ゝくそのあや
まりの己れ〻と出る事ことわさまへど是をとりのくこれを
学問乃実義と志ゝ紀学ハ世俗の学問とそゝ
ちとも一こうけまちうそ智ハ乃ほとんなるべし
問題一又不通わくも仁義乃明徳乃ほとんなるべし
とあゝけ学人以下ハ人も学問ゆくして明徳をゆゝ
ふとゝ事ありゆゝへこうや 昔日それもゆや文芸と学
問とあやまりそゝ学ハ人ゝ起ゆゝこうひゝ者学乃
先学ゝ志ゝこゝひゝくけ命ハ道と学ハ問ゆゝと学問の実義
ゝ文学ハ人そゝの一部なゝこれハ文学なゝ紀大者ゝ分と

より漢学ゝ書物なをハ人の芸術とゝ
ゝ学問とゝなり世乃事ゝとれう
ゝ分ゝ紀ゝ所ゝあゝゝ学問ハ是を喜ひゝ共
道とりのゝなゝゝ学問乃徳と宮ゝ徳ひゝくゝ
ひゝゝ中道とゝひゝと学問の物ハとゝゝなり人のまれつき
ゝ中ゝゝなゝし人芸ハ極ゝゝ実用ゝゝ仏法乃元ハ
学ゝゝ学ゝ実用なゝ人ゝゝゝ山新乃人多ゝ俗信とゝなゝゝ
又文芸ハ学ゝ小学ゝ実用ゝゝ
なゝ人ゝゝゝ

て和歌詩賦等の大きことをもく学ぶべき明徳を
ゆるかせにすべきことなるべかめれども文不通にそもよて
乃学者なるべいんとなれば文藝は道を求る器と
なれば器は学問乃ものなり　問曰大学の道は上天子より
庶人に至まで乃教なりと雖不肖の婦男
婦女は書とるべき事なるべうすいく　答曰むかし賢人
乃代乃人びとの小里乃学校乃里乃事
は代代乃人びとの小里乃学校乃里乃事
は代代乃人びとの小里乃学校乃里乃事
は代

昔云それは大なる心得そこなひあらさるそ孔子書
物は十三經なり十三經乃孔子の書
書七出なりと乃孔子はもんくを昔なり　始つる法とそて後
はつはめて学ぶ心ばせあること有り史出は古今れ事
変と考へ稽昔福漢乃市場とこそ学ぶ能力乃あ
ばこそ談りのなりとあらんべし　同十三經は何くそや
昔云孝經論語孟子周易尚書周礼儀礼論語礼記左傳
穀梁傳公羊傳尓雅　以上十三部と十三部とは
同云十三經も書数おかりて久才なれりの諸まて
ちゑ事及ひ学ひ道を同一二生学ひ道を志る人き
書は何也そや　昔云尓来易經一部とあり　ひろく

孔十三經なれは易とうく学ひそうう結は易經は
第奥玄妙ありて為乃人のそへなりこそれは孝經
大学中庸とし孔子学ふ志ひ学ひそうべ人の為
晴ふ志ひ速ありこれは志ひ志ひ志ひ
先ゆそんなれは孟子三書と学ひ能力
あらばそ力と学ふ学ひ道と学ひ学べ桜まき
能力あり八十三部と学ひ十三部とそれ学ひ孫
そ為道学ひ道とも大なるあやまりなりいうんとあ
出尺十三部そなりうばう時ふ成法乃人卓敬乃十
三部伝て後都く為の人とくあり落学庸乃
弁はいうあとうもあやまりなりいうんとなる出尺可ふ疑

をそれ人倫の事とはげむ勢あるべく皆聖賢の格言をもて
書なれば無用の書と思ふべからず学ぶべきものの出処数多
あれども成るべきものすなはち一向小聖人となる人さとりを
励まし進むべきわきまへ自己心裏の明徳をあらはすべ
き事を求むべし習学問答の明徳とはなるべきまた
三昔あり縁覚二乗なり菩薩三昔なり菩薩三昔とは自己のいさごとをもて
仏察の功を用ひもとめていさごとをもてなくば二乗の時平
如小菓をもとめずをもゆるの菓あるべきなり
昔なくば書とはいはもとめるふをもとめ

第二昔上一丁裏

問曰人倫第一小縁ひとをもとめべきものは何事ぞや
答云人倫第一小縁ひとをもとめべきものは何事ぞや
問曰人倫世第一小縁ひとをもとめべきものは何事ぞや
答云人倫の苦痛より外なし
問曰苦とは何ぞ楽とは何ぞ　答云学問なり
問云学問とは何ぞ苦痛を除き安楽を得る法なり
答曰元来吾人の本体は安楽なるものなり伝授を
授受するとは六業まで乃至成仏
乃苦悩は死とは仏なり人間は死ぬべきものの
本体は安楽なり苦痛なる死のなり苦痛なる死のまま
ちはいかなるべきなり俗なる病なり人を人は服のごとく

眼の不体ハ手てあけ自由ふしくゆとみると分明快活と
り塵物なと自分自人へとれハそてあけ自由なるす物
をうる事もふしくうるおもくを苦痛ふしくへうるし一旦苦痛
ふしくへくうこいへた芸物と家こ去とれハ体ようつる
て開閉自由ふして分明快活ふしくくんの体を
元来安楽なれた恵の芸物ふしく程こ乃苦痛ふしくへくう
し学問ハ此恵の芸物とあるひとくて体乃安楽と
為ふる道なるゆへ学問をとくをとめ工夫費用とれハ体
乃ハ安楽ようへる 問云これ人のハ自分貧困勿論と苦
ふ富貴安供と安楽とす然ふ苦楽境界なくて
性ふ有こ性いうん 答 元来のハ境をこるひと凡見と

云てあるこまこさ恵なら思夫ハ和ましひふく
貧困と苦へ行ふ云見ふ
ハ自分ふ文明富くくうれハ学ふ楽ふ人貧困ふ帯つ酒
色遊三昧乃楽ふくさゆへ人ふ天下と自分天下と憂ひ
ふとハ自分国とふしひあれハ家を憂ひ妻ふあれ
ふ妻子と憂ひ牛ふるあ自分牛ふると憂ひ金銀財宝
ハ自分ハ金銀財宝憂とふ為ふ人形苦ふ
こふ為ふ人ふ為ふくあれハ天ふこなりてもて庶人
とふりてもハ和のみふ自分ふ人ふ人ふ
苦ふ楽ふ為ふこれハ古歌ふを
世乃中ふん安くく住ひ人ハあふこふ君ふハ自

ゆゝしみて学ひ入深くす人紙毛筆墨の白端酒を
材意乃素なる紙少へ小天下とゆくも無くしてず
書ひと行くゝず書をゆくくも物くゝず書みあ特は書
学と学と牛るわれ牛るゝ常らず金銀財宝あるを天
金銀財宝ゝ溺れをみる事空と皆無くなる故と
上天ゝこなりてもを学ますあるく下庶人こなりて
もを学をゝんもるゝ小なし世間の出位を学者あ
供乃ゝこなれ世和漢ゝ小歴代乃帝王明君ゝ
それ酒色財宝乃惑なる紙ゝ単瓢箪巷流食をく
らひ水をのむ貧窮の志をこなれを楽ひあり
凡丈乃ゝ小ゝも禁中付宮女を接物情乃若ゝ

乃ゝ農人乃耕作ハ勧学乃ゝ極なれたをんの
み者ゝ学ゝ大禹ゝ治ハ勧学乃ゝ極なれを
その学ゝ快活をゝ乃ゝく能実理と体験を
以て若学乃ゝ小ゝ紙をわきまへ
きゝ小ゝず
藤岡春八我故樹先生乃撰ゝ小なる先師葬ゝ佐へと
縁乃ゝ故して江湖ゝ海方乃同志先覚ゝ能く
刑儀とゝなひ又文学小ゝ書の韜鈐
をゝ人ゝすをなげきて学をわきまへ法ゝ人の学紀
方をゝ学紀ゝして学人法ゝと希ひ師ゝ
て法ゝ法乃答上下を学ゝ法ゝ時小寛永十八年辛

己が業能師の学問なるふるまひなく此問答
録をかんがへるに改正の志あり
そなふ授けはなす家ふ登来の年樺人のまよれて
改よ樺ふちりぐりと幸ふ早く初くはとなりぬ
或人の曰義問答を久正明あり名人
乃恩なるごと紀見を読くはとうあるとあかるべ
仏ふ沙人よりこく授しくあまり授け法ふ師の
曰名氏問答と書ふ時今ふ法ふれい学いまく精ふ
ふ旦聖道乃ひればるとうしい未学の輩を教ふ
ふんあるがる沙人よを議論柳楊南くなり意南
乃累とまわるしぢ漢人名ふ十をとかるとんい都て

或ハ勝人を助ふんの恐ふ法ふ無ふ
名ふれし改正ふんと欲をかるる沙人ふ今ひろく伝ん
事と欲せず
丙戌乃年下巻二冊と可一法ふ丁亥の年又ふれ
と改ふんふす痛とふくくの故ふやみふして法ふ不
策同年上巻と改め出ふんを欲とはげふくふ果ふず
先師嘗曰問答乃中儒佛と法ふ海ふる和のと紀今見と漢
ふを理精尚とはるふ事と学ふ
又曰問答上巻名孝経ふ編録して筆とふをゆへ
故孝字を播弟と孝経乃首ふ仏教くい教くそふ
とあるごとくふ人ふも今ふれとふるるとふ

又曰世書志家あり代々世代傳の業と專の的乃人読ハ
或ハ稲叢興起わんうん休乃精微用功ひとの奥地の
ひとさハいまさうを論ひ及ひそれ先師乃意か
くせとも見とりく問答を出を事をを育ふあり
どかりぐ少ふ師事ありく投窓られを義を結ふ今
年春又梓家小洩て終ふ板りと繋ぎさうく読ふ乃
草稿乃不和て旧年の清書小ぞ小もひとを憶
しうりせるとりくうや誤字脱簡も亦間多しかり
ぐの少ふ今やむことをるどてられを考ひ上を義後
改ぐ乃篇と編へ一再ふを事を叙ふ稱ものく
師の意をあうりくられ梓ふ刻むむ

られとりくを学乃曰く小動なる事と考へ絶小ぐ
門答とりてうふをせどして精微井扇と帯び
なりび出乃ひへ法乃階級をなりね意ふりな紙
ぐりふ読ふく清血の奥なく投新乃れりそうあるは
郁て先師のおそれも辭ふ偏らんう吾意紙誠

庚寅六月既望門人識

江戸大傳馬町三丁目
書林 宋九左衛門開板

天保二年辛卯
秋八月磨滅補刻

日本橋通貳町目
江戸書林
小林新兵衛

嵩山房蔵板目録

東都日本橋南二町目角 小林新兵衛

李于鱗唐詩選 南郭先生考訂 小本 全
古文孝經 春臺先生音注 全一冊
同薄用搨同無點 全二冊
同正文 同訓点付 全一冊
同大字素讀本 全三冊
同標注 兼山先生著 全一冊
同四聲庁假名附 全三冊
同參疏 同 先生著 全三冊
同平假名附 全二冊
同片假名附全平假名附全
同國字解 南郭先生辨 全四冊
同國字解 春臺先生撰 全一冊
同解 東山先生述 全三冊
同講釋 小林文由録 全二冊
同掌故 此書故事頭書ニクハシクアラハス 全四冊
同講釋 太宰先生講説并先生ノ序モ片カナニテ注ノ初学ノ為ニナルベキ書ナリ
同講釋 増補 全五冊 全七冊 南郭玉山筑波諸老先生ノ講説頭ニ故事ヲアゲ國字ヲ以テ委ク注ス
同私記定本 朝川善庵先生著 全三冊
同箋注 淡園先生著 全八冊
同集覽 北山山本信有撰 全二冊
同山子點 全一冊

唐詩選餘言 淡園先生著 全二冊
同夷考 平賀先生著 全五冊
同兒訓 新井白蛾先生著 全三冊
同唐音附 五言絶句 七言絶句 全一冊
同畫本 五言絶句七言絶句 五冊ヅヽ編 五言律 同續 四
諸名家ノ画ニシテ詩ノ意ヲ画ニアラハシ平カナニテ註釈セシ面白キ書ナリ
同和訓 一名経典余師
此書本文ヲ頭ヘノセテ平カナヲ付又平カナニシテクハシク注釈セシ本ヽ
同字引 寸珎本 全一冊
同詩かるた 五言絶句 七言絶句 猶入 同
草書唐詩選 東江先生書 全三冊
草書同 烏石先生書 子昌先生書 全三冊

古文孝經白文 東江先生書 素讀大字本 全一冊
同冢註 太峯先生著 全一冊
同和字訓 同先生著 平カナ註 全一冊
同解 金勝翁述 全一冊
此書孝經ノ意ヲ童蒙ヘ知シメンタメ本文ヘカナヲ付平カナヲ以テ注セシ書ヽ
同國字辨 徂山先生閲 全三冊
古文孝經 清原点 全一冊
同足利本 全一冊
同國字口義 全一冊
同外傳 全 同古傳 全
清人知不足斎叢書唐本飜刻
春臺先生音孔傳古文孝經 全
孝經平林先生書 石搨 全一冊

草會唐詩選 東洲先生書 全一冊
五禮唐詩選 同 先生書 全二冊
唐詩品彙 五七言律 排律 全五冊
同小本 五七言絶句 全五冊
唐詩遺 南豐先生撰 小本 全一冊
此書ハ唐詩選ニモレタルヲ集メテ句妙作意ノ勝タル詩ヲ撰マレタレハ唐詩ヲ学フヽ必坐右ニ置ベキ書ヽ
論語古訓 春臺先生著 全五冊
同素讀正文 同 訓点付 全一冊
同古訓外傳 同撰 全十冊
論語正文 山子点 全一冊
韓文公論語筆解 全一冊
論語据解 全一冊

孝經馬場先生書 石搨 全一冊
女孝經 唐鄭氏著 素讀本 全一冊
同經典余師 島井蘭山先生譯 全一冊
此書本文ヲ首書ニノセテ平カナヲ付本文一章一句ヲトニ詳ニ和解ヲ抄スルユヱ幼少ノ女子トイヘドモイロハヲヘ知ラバ師匠イラズニ讀下シ其コトワリヲ明ラカニ知ルベシ父母舅姑夫ヘ孝貞ノ道ヲ教ルハ此書ニシクハナシ孝ハ國家ノ至宝タリ其シカタ悉コヽニアゲタリ
女訓孝經 和漢画入 八隅山人著 全一冊
女孝経ニナゾラヘカナ文ニシテ女子ノ教弟ニス頭書ニ和漢孝貞ノ賢女ヲアラハシ身ノ行義タヽシキ教専ラニシテ父母舅姑夫ノ心ヲモヤスカラシメ子孫モ自ラ孝貞ニオヒタヽシキ必用ノ書ヽ土産進物ナドニ殖法ヽ本ヽ
南郭先生文集 全廿四冊
同絶句集 五七言 小本 全一冊
芸閣先生文集 全七冊

論語徴訓約覧　全五冊
論語徴正文　全一冊
孔子家語　春臺先生増注　全五冊
同標箋　同撰　全五冊
同國字解　鏡湖先生述　全五冊
太宰増注千葉標箋冢田注等合考其ヨキ説ヲトリテ則片假字ヲ交ヘ明白ニヨメヤスク初心ノ人為ナランヨス聖人ノ有カタキ教何必日月ニ異ナラズヤ因テ四民ノ輩上下トモ此書ヲヨマズンハ有ベカラズ論語ト家語トハ内外表裏ノ如シトモイヘリ
孔子行状圖解　全一冊
孔子御一代ノ事ヲ図ヲ出シ漢文必詳ヲ
孔子事跡圖解　全三冊
瑞陽先生ノ口授ノ旨ヲカナ文ニシテ天民鶴洲両先生ノ画図ヲ以テ詳ニス孔子ノ事跡ヲ知ル此書ニシクハナシ
觀海先生集　全六冊
蘭亭詩集　全六冊
蘭水詩草　谷友信文卿著　全三冊
東野遺稿　安藤　全三冊
中山詩稿　全一冊
鐘情集　全一冊
鶴樓詩稿　全三冊
日本名家詩選　藤元昺輯　五百四十五首　全一冊
徂徠南郭太宰諸先生ヲ始メ諸家ノ詩ヲ集ム
日本古今詩選　淡園先生編選　全一冊
踏海集　服元雄仲英著　全八冊
同遺　同著　全二冊

孔子御一代記　全五冊
升堂圖解　蘭堂先生画　全一冊
孔子及高弟ノ賢人ノ事跡ニ画ヲ加ヘ知ラシム
弟子職　百年先生著　全一冊
経典余師　師弟の礼ヲ述シ書ニテ本文ヲ首ヘアゲカナヲ付平カナニテクハシク註セシ書ニ
孝經鄭氏解　清洪頤煊補證　日本東條弘増攷
同両造簡孚　同撰　全一冊
詩經古註　前漢毛萇傳　後漢鄭玄箋　全五冊
七經孟子考文補遺　全三十冊
大學解　中庸解　徂徠先生著　全三冊
徂徠先生學則　全一冊
同解　三浦衛興淳夫撰　片カナ註　全一冊
春臺先生文集　合本　全十二冊
詩書古傳　春臺先生著　全十二冊
藍田先生文集　同著　全六冊
同講義　同著　全一冊
詩題苑　物茂卿編選　全三冊
蒙求拾遺　江廣保著　全三冊
李瀚カ蒙求ニ遺セルヲ拾テ標題声韻ヲオスモ白ニ倣ヘリ凡四百八十句八出所モ明細ニセリ南郭ノ序アリ
同標題　河保寿先生書　大字　全一冊
同片假名附　一枚摺　全
大東世語　南郭先生著　全五冊
本朝古ノ公卿武将名僧士庶ノ言行世教ニ益アルベキヲ部類ヲ分チ述タル書ニ
冢註論語　太峯先生著　豎　全五冊

學則國字解 熊井清庸撰 全一冊
同 并附錄 藍田先生標注 全二冊
李滄溟尺牘 蘭陵先生考訂 全一冊
同考 上毛九峰山人纂 全三冊
同兒訓 新井白蛾先生著 全四冊
南郭尺牘標注 櫟岡先生輯 全二冊
發字便覽 冢田大峯先生著 全一冊
タトヘハ周易ノ易ハ本音入聲ナルヲ簡易トシテ去声ニテ易トナル是發音ナリ一字ニテ両様ニ様ニ本音外ハ小圈ヲ加ヘ字義ヲ知シメ畫引ニワカチ字ヲメヅヌルニ便ナラシム
漢土歷代名畫苑 全一折
唐宋ヨリ明初迄ノ画家ヲ上品中品下品ニ部分シ其得タル品目ヲ記ス且佛祖ヨリ禅宗大德寺嗣世ノ法系ヲシルシ茶人墨跡ヲ好人ニ順次ヲ見安カラシム

論語古訓正文 片カナ付 全一冊
度量衡考 物茂卿著 全二冊
發音錄 全一冊
發音捷徑 全一冊
威儀略述 增林寺嫩控集 全一冊
洞上規繩 同 全一冊
梅山普悅 全一冊
大梅禪師語錄 全二冊
文徵明阿房宮賦 行書 石摺 全
王華帖 廣澤書 同 全
和文章 烏石山人書 釋文付 全
大悲堂碑記 河保壽書 全

明醫小史 官医望月鹿門先生著 全一冊
明朝医家ノ著書等ヲアゲマ、其評論ヲ加フ
附錄ニ順治以来ノ医家ヲシルス
復古明試錄 稲葉先生授 全一冊
童蒙日用明鑑 全一冊
三家詩話 大風先生著 全一冊
滄浪詩話徐昌穀ノ談藝錄王敬美ノ艺圃
擷餘ヲ合刻ス徂徠先生ノ序アリ
樂府古題要解 南昌先生考訂 全一冊
漢魏以来樂府ノ題ニ用ル所ノ意ヲ詳ニス
産語 春臺先生著 全二冊
此書ハモト先生草稿本ヲ市ニ買得テ益アル書ナレハトテ校合シ全書トセラレシニ跋文ニ此事ノセタリ
和讀要領 同先生著 全三冊
句讀ノ法素讀ノ要ヲ述儒士音注ヲ見アヤマリ相違ノヨミヲナスヿ又字訓ノコトマデアリ初学心得ニナル書ヽ

芭蕉翁碑 石摺 全
大樓御上洛式 [illegible] 全
同書狀集 大樓書[illegible] 全
同江戸往來 全
待欲消息 [illegible] 全
神器譜 唐本飜刻 全五冊
明中書趙士禎著日本清水先生校
武備ノ要ヲ述サマ〳〵ノ銃炮放打ノ法其制作図ヲアラハシ火薬ノ方戰陣ニ用カタ其蓋與ヲ尽シ兵書ニイマダ書サル処ニテ火攻ノ要具武門必用ノ書ヽ
甲冑著用辨 井上睿下先生著 清水赤城先生校 全二冊
甲冑早被ノ傳六具ヲ着整フ迄図ヲアラハシ末巻ニ早血止兵粮凡祕事数〻ヲ加ヘ武門ノ助トスヽタ者必用ノ書ヽ
帶甲通 小寺信正大人選 全二冊
凡鎧制作ヨリ着用ノ仕方ソノ外用具ヲ委クシルシ武門必用ノ書ヽ

辨道書　春臺先生著　全一冊
儒佛神道ハ鳥ノ三足ノトシト云フ破シテ道トハ孔子ノ天下国家ヲ治ル道ノ外ニハナシ巫祝ノ道ハ小道ニテ仏道モ国家ヲ治ル用ナリ皆道トスルニ足ラザルコトヲ平カナヲ交ヘ書タル

聖學問答　仝先生著　全二冊
宋朝程朱ノ理学ヲ説破セシ書

聖道合語　冢田大峯先生著　全二冊

同得問　仝先生著　全一冊

学語　仝先生著　全一冊
学問ノシカタヲ和文假字交リニ書タル

六經略説　太宰先生著　全一冊
詩書礼楽易春秋ノ用ヲ説宋朝程朱ノ学徒ノ謬ヲ論辨セシ片假字和文ノ書ナリ

國字訣　揄井元簡大人撰　全一冊
イロハ假字ノ本字ヲ古書トモヨリ考有テ誌シ片假字ノ本字ヲ未ニ出ス

官職俗訓　全一冊

新著聞集　全十二冊
近代ノ事ヲ可きことゞも記シ人名を たゝ[illegible]
勅勘の[illegible]あり寿[illegible]怪[illegible]もまゝ[illegible]これハ
世ノ[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]

心学俗語　[illegible]　全二冊
世の人情の[illegible]利を[illegible]
[illegible]

民家生要紀　文荊山人撰　全二冊
一名浪世住合袋
世[illegible]
[illegible]

[illegible]　全一冊
[illegible]

行書二王牌　全六冊
此書ハ二王法帖其外諸帖ノ行躰ヲ畫ヲ以テ編集シ字ヨトニ何レ世ノ躰ナルヲ知シメ摹刻精妙ニノ二王ヲ学ブニ專要ノ書

老子特解　春臺先生撰　金峰先生續校　全二冊

同正訓　荷允明哲夫註　全二冊

御家流　民家学要　[illegible]先生著　全一冊

圖繪宗彝　唐本翻刻　全五冊
人物山水花鳥蘭菊梅竹草木獸類畫ヘ類畫ヘ
畫禅筆法ヲ出シ附録畫論アリ

繪文匣　松井三添撰　全一冊
略人一百人ヲ畫ヲ俳画先生筆の[illegible]

椿年画譜　和人物之部　全一冊

同　二編　三編
唐トハ[illegible]人物花鳥ヲ交ヘ初心画ヲ学フニヨキ手本

女重宝記　[illegible]井[illegible]先生校　全五冊
[illegible]

同　後篇　日撰　全四冊

衣者口傳抄　日撰　全一冊

挿花百瓶家式　馬文撰　全二冊
遠州流

挿花衣之者　朱一馬撰　全四冊
西風遠州

挿花ひとり稽古　日撰　全一冊

同　後篇　日撰　全一冊

幸日 男童宝記 平仮名附 全五冊

[illegible]

孝經宗旨引證 嵋峰先生校 全一冊

孝經ハ孔門ノ高弟聖人大道大貫皆傳アリシ曾子ノ書ニテ古文孝經(孔安國ノ傳後世宋ノ朱文公冊定シ刊)語ノ書成今文孝經今孝經大義ト云其後明ノ王陽明孔孟ノ道ヲ信シ孟子性善ノ說ノ如ク人皆良知良能ヲ具ヘタルヲ以テ衆ヲ啓示ス其風ヲ学者頗ル多シ就中羅汝芳孝經宗旨ヲ著シ羅氏ノ門人楊起元孝經引證ヲ著ス聖門学孝經最第一ナルヲ見得テ著述スル処ノ古今紛ミタル說ヲ用ズ二書合刻ノ此冊ヲ以テ至要ノ道ヲ會得スベキモノナリ

焚書收燼 鬢髮先生撰 全七冊

焚書ハヤケタル書收燼ハモエクヒヲサルト訓ス尚書ハ孔子自ラ敘エテ処六経ノミニテ堯舜禹湯武王及ビ伊傅周召古ノ聖主賢臣国ヲ治メ天下ヲ平ラ政要悉クコニアリ暴秦悪ヲ逞シフセントスルニ儒書ハ人ノ人タル道ヲ記シ悪ヲスルノ妨トナル天下ノ儒書ヲ集メ積テ火焚トナス時ノ賢者大道永ク廢ランヲ哀ミ或ハ負テ深山ニ遁レ或ハ壁ニ塗蔵シテ世ニ出モアレ錯乱甚シ時ナル哉命ナル哉儒道ノ大厄タリ孔氏壁中ヨリ出ルヲ古文尚書ト云孔安國傳ヲ作ル又伏生ト云人長寿ニテ博文強記能古書ヲ口授ス此翁ノ傳ル処ヲ今文尚書ト云漢ノ馬融鄭玄註ヲナス是亦晋ノ乱ニ亡滅セリ今世ニ傳ル古文尚書秦火ニ錯乱脫誤シ篇次序ヲ失スル者許多ナリヲ鬢髮先生諸書ニ考訂シ敘テ定メ始テ尚書古色復シ真ノ面目ヲ顕ス大業ナル哉世ノ尚書ヲ読ンニハ必ズ此書ヲ以テ正ヲ取ルベキモノナリ今近世ニ行ハル処ハ焚ノマヽナルヲ此度簡篇ヲ正シク成書ノ業ノ守ニテ知シムル

清家農家文學 平仮名附 全一冊

[illegible]

幼學指南 清王雲軒老人述 全一冊

[illegible]

翁問答 中江藤樹先生著 全三冊

[illegible]

繪本孝經 全一冊

[illegible]

繪本忠經 前北齋爲一老人画 全一冊

[illegible]

古文孝經正文大字本 春臺先生訓点 全一冊

[illegible]

忠經集註詳解 漢馬融撰 漢鄭玄註 全一冊

經典餘師忠經 高井蘭山先生述 全一冊

孝經十八章八百四十字の者子の云と天下に行るの道の八一集せり成るに成りて後漢の馬融字を季長云孝經十八章と作りと云字字鄭玄字は康成孝經のこと知て忠經とよまぬ人多し孝に忠の字あれば忠孝とよまぬ人多し先に忠孝とつけ置ふかを考と加多清釈せり也いろはさよまぬ者も多しそのとけを詳に知れ国民こころの經と可しやうにこそ先也べし

孝經小解 備前藩大儒 熊沢蕃山先生著 全二冊

此孝經の書と幸蒙初しめんの事うを此次くしく注釈せり先生の学人皆知ところあれ必ずしんべしべ

御成敗式目 弓国法規五条

繪本唐詩選 五七言古詩 翠溪先生画 全五冊

同 五言律排律 **續編** 前北齋為一老人画 全五冊

同 七言律 同画 全五冊

天保新刊唐音附 **唐詩選字引** 寸珍本 全一冊

奮板畫数ノ差ヲ改毎字韻書ニ檢シテ唐音ヲ改附ス

綿圃要務 宋 [illegible]

文長食後の三文字のこと一つも欠べうしび本末ハ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]大切のものの[illegible]こと[illegible]国[illegible]必ず[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]

養生嚢 小川先生作 全二冊

[illegible]男女命数と保ち天地と長て[illegible]

此世に[illegible]医師の[illegible]

[illegible]

生花千代之松 古流二百瓶之図 松秀ノ斎先生撰 全四冊

訓蒙天地辨 高蘭山先生著 全三冊

日月の行度より雷地震まで絵図を加へ平易にしるす

豐稼録 大蔵永常著 全一冊

附録農家[illegible]

此ハ稲を刈て掛干にする仕方を記しるす

[illegible]

堪忍記 貝原先生作 合巻四冊

此ハ人の世に出ハ[illegible]

女古状揃

宮井業広先生著　画入　全一冊

同書紙形

同　撰　全一冊

世ハ女子ちつけくのせにして元一人の子ようなりしたのしびゆゑ　おもて今大成ひとを中すえ
元ぬ寺世ハ書初の文ゐ世家ぬ寺教ゆゑ
ゐ　ゐ　ゐ　